

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成する。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、研究授業を活用するなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。</p> <p>・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」における資格取得の向上への取組など、早期からキャリア教育を意識して進路支援の充実に努めることが必要である。</p> <p>・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりを推進し、出来るだけ早期から外部関係機関との連携を進めていくことが必要である。</p> <p>・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、進路指導における全体の指導力の向上が必要である。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>(1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実</p> <p>(2) 部活動の充実</p> <p>(3) コミュニティー・スクールを活用した地域連携の推進</p> <p>(4) 業務改善による教職員の資質向上と健康増進</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○生徒が自己肯定感をもって取り組めるような授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業により基礎基本の定着を図り、参加している実感や興味をもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 40%未満であった。	4	今年度は93.0%であり、昨年の89.2%を上回ることができた。多くの教員は、生徒が興味・関心をもって授業に参加し、理解してもらえるよう、身近で生活に即した題材を取り上げる等工夫をこらし、どのような授業をすればよいか日々考え試行錯誤しながら教材研究に励んでいる。 個々の生徒が様々な場面で能力に応じ、自己を発揮できる授業の改善がなされているところである。	教員が生徒に深く関わりを持つようとする意欲を感じ、十分に評価できる。 先生方の努力がわかるアンケート結果であり、生徒が興味を持って授業に参加し、理解できるよう教材を工夫している点が評価できる。 具体的な実践例も紹介して欲しい。 わかる授業から自信をつけ就職・進学に結び付けていくとよい。	A
	○教員相互の授業研究・公開授業の推進	・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究に努め、資質向上を図る。	4: 3回授業参観し、授業研究に努め資質向上に繋がった。 3: 2回授業参観し、授業研究に努め資質向上に繋がった。 2: 1回授業参観し、授業研究に努め資質向上に繋がった。 1: 授業参観することはなかった。	4	本校では例年11月初旬に、近隣中学校の教員、在校生の保護者等を対象にした公開授業週間を設けている。また、この週間等を利用し相互の授業参観を通し、各自の資質向上に繋がっている。今年の校内の授業参観は平均3.8回と目標を上回った。しかしコロナ禍の影響により、近隣中高の授業見学の参加機会が無く、授業研究に生かされなかったのは残念なところである。今後も公開授業等に積極的に参加し、授業研究を深め資質向上につなげたいと考える。		
生徒指導	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、家庭との協力や相談を密にする。	4: 校内だけでなく校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3: 校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2: 生徒への対応が図られた。 1: 生徒への対応に不十分な点が多かった。	4	・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われた。希望に応じて、保護者のカウンセリングも行っている。 ・また、校外での各組織(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事案によっては協議に参加してきた。	細やかな生徒指導で評価できる内容である。関係機関との連携や情報共有が適切で、一人ひとりに対応した指導を心掛けていくように感じる。今後も事情を抱え困難な生徒に寄り添いを期待する。 生徒だけでなく保護者への支援も、学習環境の大切な一面である。	A
	○日常の生徒の意識や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多様多様であるため、学校不適應による意欲の低下やいじめなどの人間関係を各学期のアンケート実施により事前に察知し、全教員でその情報の共有をはかる。	4: 個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3: 個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2: 支援と指導に取り組んだが、事後対応が主であった。 1: 支援と指導が不十分であった。	3	・生徒一人ひとりの状況を担任が把握し、教育相談や生徒指導担当との情報共有を行っている。全体の職員会議において、定期的に情報交換を行い、支援や指導方法については、共通理解のもとに取り組んできた。 ・多くの学校行事が中止や変更となる中、個別支援が必要で集団生活が難しい生徒のますますの経験不足が憂慮される。		
進路指導	○個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。	4: 7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3: 半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的な進路に結びついた。 2: 情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1: 情報伝達に終わった。	4	新型コロナウイルス感染症の影響で就職選考が1か月遅くなった。その分、すべての希望生徒へは個別に時間をかけて支援することができた。 進路先未決定の者と進学希望者については、これからの支援が進行中である。	進路指導面において一定の成果を残した。個別支援が十分なされている。仕事をしながらの通学に加え検定の受験など生徒はよく頑張っている。先生方のフォローに期待する。 取得する資格等の不一致をなくすためにも面談の積み重ねが必要だと思う。合格率をあげていく事で自己肯定感も高まるのではないかと。	B
		・「総合的な学習の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4: 生徒の70%以上が受検し、合格率は60%以上であった。 3: 生徒の70%以上が受検し、合格率は40%以上であった。 2: 生徒の50%以上が受検した。 1: 生徒の50%未満しか受検しなかった。	2	全体の受検率は81%と昨年度の77%を上回った。また合格率は約32%と昨年度の26%を上回った。しかし合格率は、3の目標である40%には到達しなかった。合格率を上げるためには、個人の選択と検定・資格の種の不一致をなくすことが大切である。そのためにはオリエンテーションをしっかりと行う必要があると考えられる。		
特別活動	○生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良き慣習が引き継がれるように支援する。儀式的活動では望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事において、生徒役員のみならず全生徒を主体的に活動させる。始業式や終業式、定体連行事などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出に残るものとさせる。	4: すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 3: 2つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 2: 1つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 1: すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができなかった。	3	・多くの生徒会行事が中止となったが、昨年度に導入した新たな行事は試行することができ、新役員に継承できた。 ・生徒数は40名余りではあるが、集団に参加できない、意欲が低いなど多様な生徒がいる。コロナの影響で、安易に行事を中止するのではなく、変更や工夫を加えて、なるべく多くの行事が経験できるよう様々な工夫が必要である。	コロナ禍においても行事を催行し、意識的に取り組まれている。今後は、コロナ禍での行事の在り方についてより検討を深めて欲しい。 「あったか給食」において、保護者だけでなく地域の方々の協力を得られると、コミュニティ・スクールとしても良い取組になる。生徒の思いが活かされる行事が増えることを期待する。	B
業務改善	組織的な取組	・ジョブ・ローテーションを取り入れて教職員同士の連携強化を図る。	4: 教員同士の連携が進み教育活動全般がスムーズに行われた。 3: 教員同士の連携は進んだが指導力の向上までは至らなかった。 2: 教職員同士の連携は従来通りで仕事分担に大きな変化はなかった。 1: 教職員同士の連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	多くの教員の校務分掌を変更し、新たな見方で、分掌の仕事について活発な意見交換が行われるようになった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が難しくなった行事についても、意見を出し合い、できる形で実施したり、他の行事と絡めて実施したりと、教育活動全般がスムーズに進むようになってきた。	教員同士の連携が図れている。さらに知恵を出し合い生徒が有意義な学校生活を送れるようにして欲しい。 コロナ禍において、教員の業務増加は致し方ないと思うが、今年度の経験をもとにスクラップ&ビルドで精選し、教員間の連携によって短縮されることを期待する。	A
	○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・書架や供覧文書の設置場所など、職員室の作業環境を見直し、ワーキングスペースを拡充する。 ・各分掌のフォルダー等の整理をし、誰でも分かりやすく使いやすいものにする。	4: 作業環境が整理整頓され、ワーキングスペースが拡充された。 3: 作業環境が整理整頓されたが、ワーキングスペースの拡充には至らなかった。 2: 作業環境は従来どおりで変わらなかった。 1: 今年度分の増加で、作業環境がより劣悪になった。	3	サーバー内の各分掌のフォルダー内の整理を進めている。また、新型コロナウイルス感染症についての文書が多いため、一つにまとめた場所を設置した。		

【成果】	<p>①理解しやすい授業、わかる授業のために研修や教材研究に努めた結果、授業アンケートでは全体として昨年を上回る90%を上回る肯定的な評価を得ることができた。</p> <p>②生徒一人ひとりの状況を担任が把握し、全体で情報共有を行い、支援や指導方法については、共通理解のもとに取り組み、よりきめの細かい生徒支援を行うことができた。</p> <p>③10名の卒業生に対して、個別に支援を行うことができた。就職希望者・進学希望者ともに最後まで諦めずに進路実現に向けて努力をした。</p>
【課題】	<p>①今後、ICT機器等が導入されていくが、これに対応した研修や教材研究を進め、臨時休業等が起こった際にも的確に対応していく必要がある。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となった行事が多く、学年を超えた生徒間の繋がりを深めることができなかった。</p> <p>③資格取得については合格率を高める指導の工夫が求められる。</p>

7 次年度への改善策	
<p>①ICT機器の導入や次期学習指導要領に対応した授業を行うため、研修会への参加、校内研修の取組を企画していく。</p> <p>②入学後すぐに中学校、関係機関と連携して生徒支援の切れ目がないようにしていく。また早期からキャリア教育を意識して進学指導を教職員全体で取り組んでいく。</p> <p>③新しい生活様式に適した行事の運営を検討し、生徒同士、生徒と教員のコミュニケーションが深まる行事の立案に取り組んでいく。</p> <p>④検定学習に関しては科目選択の際にマッチングの問題と受検する級の設定を個別に丁寧に確認をしていく。</p>	